

他のボートやクルーに事故が発生したとき、視覚障害があってもすべきこと、重要な役割があります。

## 1 事故発生時の行動体制／視覚障害者のための補強

### 陸上の安全責任者

事故が発生したときに、陸上では誰が安全の責任者として残っているか、明確に設定できているか、を常に把握・検証しましょう。

全員が乗艇し、誰も陸上に残らない場合も、事故に対する安全対策が充分か、再検証しましょう。

### EAPや緊急時連絡表のUD（ユニバーサルデザイン）

EAP(Emergency Action Plan)は、事故発生時のための行動マニュアルです。（緊急連絡表などを含む）EAP は、クラブや水域で用意されているはずですが、視覚障害者も利用できる状態でしょうか？ 視覚障害の程度は様々ですが、掲示板のUD（ユニバーサルデザイン）；できるだけ大きな文字やコントラストの高い表示にする、点字版を設ける、サイレンや回転灯、といった観点から検証してみましょう。

誰もが楽しめるスポーツの環境を整えるためには、視覚障害者自身が、緊急時にも行動できる可能性を広げる工夫を考え、提案していきましょう。

## 2 事故発生時の行動の基本 / 視覚障害でもできる大切なこと

### 行動手順

事故発生時、邪魔になるからと、何もしないのは良くありません。完璧でなくても勇気をふるって「できそうなことを実行しましょう」。救助活動は、①遭難の人数や被害の把握、②遭難者の救助（艇につかまっている者と行方不明者がいれば、つかまっている者を優先救助。被害拡大の防止）③救助要請(119 番等)の要否を判断・実行、④行方不明者搜索、⑤救助した遭難者のケア、の順で、あるいは手分けして展開します。

視覚障害者は、混乱した中で最も冷静に状況把握できる立場です。大切な役割は、「最も冷静にその場の状況を把握し『忘れられていることがないか?』検証し、記憶（記録）していく」ことです。

### 119 番通報（救急車）または 110 番(警察)

消防側が適切に質問するので、落ち着いて聞かれたことに答えていきましょう。「電話を切って」と言われるまで切ってははいけません。重複通報を避けるため、通報したことを周囲に伝えましょう。(当局側で連携しているので)110 番に通報する必要はありません。

## 3 CPR（心肺蘇生法）と AED（自動体外式除細動器）

CPR や AED の一連の手順を理解しておきましょう。溺水時は、AED が機能するとは限りませんが、あれば実施します。AED は心臓圧迫の代わりでは「ありません」。AED があっても、CPR を中断せず継続することが重要です。